

知財情報フェアにおける特許網構築への AI 活用

2026 年と 2025 年の展示発表の比較調査

調査基準日 2026 年 9 月 21 日

GPT-6 Astra

調査の要点

比較対象は、2026 年 9 月 16～18 日開催の知財・情報フェア&コンファレンスと、2025 年 9 月 10～12 日開催の前年大会である。公式の出展者・製品情報、発表要旨、企業の出展告知、公開講演資料、開催報告を照合した。[1][2]

2026 年には、基本特許から周辺特許群の案を生成する機能が明示され、AI を特許網の設計に使う提案が具体化している。一方、2025 年にも発明創出、ポートフォリオ分析、AI エージェント、特許群からの事業構想はすでに登場していた。変化は、個々の機能の登場だけでなく、それらを事業戦略・研究開発・出願判断につなぐ方法が詳しく示されるようになった点にある。[3][4][5]

本稿では、特許網構築を「事業を保護するため、基本・改良・用途・実装などの発明を相互補完する権利群として設計すること」と捉える。①特許網の候補生成、②周辺発明の発掘・拡張、③ポートフォリオの設計・評価を区別し、単なる特許件数の増加や明細書生成とは分けて評価する。

以下の展示・発表内容は、公開資料で確認できた説明・告知・開催報告の範囲を示す。製品の機能説明と、権利化や競争力の改善を実証した成果は区別する。表中の「位置づけ」「比較上の意味」および後半の考察は、本稿の分析である。

2026 年の展示と発表

特許網の候補生成を明示した AI Samurai

今回確認した公開資料の中で、特許網構築との関係を最も直接的に示していたのは AI Samurai である。同社の 2026 年 9 月 9 日出展発表は、次の機能を説明している。[3]

表 1 AI Samurai の 2026 年出展機能

機能	出展発表で説明された内容	特許網構築との関係
発明ホコタテ	基本特許 1 件から、役割の異なる周辺特許群の案を 5～6 件、約 5 分で生成。「革新度」の設定で展開範囲を調整。	基本特許を起点とする周辺出願候補の生成。
発明御三家	GPT・Claude・Gemini が同じチャット上で議論。	異なる視点からの発明拡張・検討。
特許合戦	特許ポートフォリオと製品情報を比較し、結果を可視化。	権利群と事業・製品との対応関係の把握。

機能	出展発表で説明された内容	特許網構築との関係
MCP サーバー	生成 AI を日本・米国・中国の特許データベースと接続。	発想・調査・分析を実データにつなぐ基盤。

関連発表として、9月16日・17日にトヨタテクニカルディベロップメント（以下、TTDC）との共同講演、9月18日に白坂一氏による「特許ウォーズ×特許 MCP で知財革新」が告知されている。[3]

生成対象は周辺特許群の「案」である。「5～6件・約5分」は出展者が示す処理能力であり、その案が権利化できることや、競合による回避を防げることまで実証した数値ではない。ただし、入力を基本特許、出力を役割の異なる周辺発明群として明示した点は、本稿のテーマに近い具体的な進展である。

戦略分析と発明拡張と組織運用

2026年には、特許網の生成を補完する戦略分析、発明拡張、組織運用の展示も広く確認できた。講演番号は公式プログラムの識別番号であり、P2-03などの表記によって発表要旨を確認できる。[6]

表2 2026年の関連展示と発表

出展者と発表枠	確認できた内容	特許網構築における位置づけ
NGB P2-03・P3-09	米国・ドイツのCPC別出願動向・放棄率・両者の組合せを分析。生成AIで市場・技術・企業情報と結び付け、仮説を検討。[6]	権利を追加・維持する領域を考える分析。前年の日本特許分析から対象を拡張。
HackCamp P1-04・P4-12	特許群から技術・機能を抽出・構造化し、複数特許を横断して用途を発想。用途仮説を研究開発・出願へつなぐ工程を提示。[7]	保有特許の組合せから、新たに押さえる用途・事業領域を見つける支援。
AIBS 知財戦略ラボラトリー	構造戦略論・特許ポートフォリオ理論を生成AIで可視化するビジネスランドスケープ。事業上の重要部分を見極め、権利を集中させる構想。[8]	何を囲うべきか、どこに出願資源を集中するかという設計思想へのAI活用。
パソナナレッジパートナーほか	電通総研・鷺田国際特許事務所との共同出展。AIによる競合・ポートフォリオ分析や空白領域の抽出に、クレーム設計・権利化方針、人材・組織支援を組み合わせる。[9]	分析結果を出願方針と実行体制へ落とし込む支援。
Amplified P3-01	特許データベースと自社LLMをAPI・MCPで接続。調査結果・判断理由を共有・蓄積し、戦略的ポートフォリオ管理にも展開。[10]	個々の案件で得た知見を、継続的な特許網整備に再利用する基盤。
レクシスネクシス P2-08・P4-09	PatentSight+のProtégéに自然言語で問い、競争環境、成長技術、ポートフォリオの強み・課題を分析。分析手順の可視化も説明。[11]	自社・競合の権利群を評価し、補強対象を選ぶ分析。

出展者と発表枠	確認できた内容	特許網構築における位置づけ
NTT データ	AI との対話による発明発掘・発明提案書作成。知財と研究開発の連携を重視。10 月以降の先行提供予定サービスを含む展示。[12]	技術者の知見を引き出し、網を構成する発明候補を取りこぼさず収集する支援。
aiip スズエ国際特許事務所 P6-16	マインドマップによる発明発掘、明細書生成、中間対応などを支援。AI 出力を弁理士が精査・補正する連携モデル。[13]	発明の展開から権利化までを接続。生成と専門家の判断の分担を具体化。
アイビーリサーチ	特許専用ローカル LLM による、図面・化学式を使った請求項・実施形態の生成、発明バリエーションの展開。[14]	改良・変形・応用を検討する支援。明細書の充実と複数出願の網設計は別工程。
TTDC AI Samurai P4-10	国内外の権利戦略、調査、AI 翻訳、現地事務所との連携、費用低減をまとめて説明。[6]	特許網を複数国で実行・維持する際の運用面を支援。

AIBS は、株式会社アビリティ・インタービジネス・ソリューションズの略称である。

このほか、Patentfield の生成 AI による査読・ポートフォリオ分析、Patlytics のクレームチャート・FTO・ポートフォリオ分析、Genzo AI の発明提案・出願実務支援も関連する。これらは調査・検証・文書化工程に利用できるが、公開説明だけから特許網全体を自動設計する機能とまでは評価できない。[15][16]

2025 年の展示と発表

前年の資料を確認すると、発明創出とポートフォリオ構築はすでに主要テーマとなっていた。今年の機能を評価する際に見落とせない展示・発表を表 3 に整理する。

表 3 2025 年の関連展示と発表

出展者	2025 年に確認できた内容	比較上の意味
AI Samurai	IdeaBox によるアイデア整理・構造化、発明提案書からの特許文書作成、拒絶理由対応、クリアランス調査。ブース講演では発明創出から調査・明細書までの AI エージェント活用を紹介。[17]	今年の周辺特許案生成には、前年からの発明整理・文書化・調査支援という基盤がある。
NGB	P19・P76 で、ポートフォリオ構築に向けた特許分析指標と生成 AI 活用を発表。出願・放棄の動向を使う分析を提示。[4]	ポートフォリオ設計への生成 AI 活用は前年から明確。
TTDC	swimy で発明・調査を支援し、図・フローチャート・化学式・数値範囲への対応を展示。戦略的外国出願とポートフォリオ構築への AI 利用も提案。[18]	発明候補の具体化と、複数国への出願展開の双方が存在。

出展者	2025 年に確認できた内容	比較上の意味
Axelidea	AXELIDEA Patent でアイデア・クレーム・市場ニーズ・事業化構想を生成。Patent Flow で特許番号から戦略等をレポート化。Patent Spark で発想を支援。[19]	発明生成と事業価値の検討を結ぶ提案が前年から存在。
Amplified	P9 で、AI エージェントによる検索からレポート作成までの実演を告知。明細書作成・ポートフォリオ分析も対象。[4]	エージェント化そのものは 2026 年の新規性ではない。
XLSCOUT	P15 で Agentic AI を取り上げ、請求項解析、明細書の要素抽出、図面との対応付けなどを紹介。[4]	発明から権利取得・活用へ工程をつなぐ構想が存在。
HackCamp	ivan による事業アイデア生成を実演。正林国際特許事務所との講演で、複数の特許群からテーマを導くモデルを紹介。三菱電機との講演も実施。[5]	特許群を使う発想は前年から継続。今年は構造化・横断的発想・出願への接続を詳述。
AI データ	MyTokkyo.Ai で発明抽出、先行技術調査、発明提案書作成を AI エージェントで一体支援。[20]	発明から調査・提案書までの連続処理は前年にも存在。
Patsnap	Eureka を展示。開発テーマ探索、技術課題の分析・解決策提案、知財保護、競合情報収集を支援。[21]	研究開発と知財を横断する専門 AI エージェントが前年から存在。
NTT データ	初出展。知財特化型 AI・AI エージェントのプラットフォーム、技術探索、社内外データ分析を紹介。[22]	今年是对話型発明発掘という利用場面が明確化。
アイビーリサーチ	ローカル CPU で動く特許専用 LLM による明細書生成と RAG 利用を紹介。[4]	ローカル LLM や RAG も前年からの継続要素。
AIBS	IP と経営を結ぶコンサルティング、特許分析から事業戦略を導くサービスを展示。[23]	今年は戦略支援について、生成 AI とポートフォリオ理論の組合せを明示。

エムニの AI 特許ロケットは、特許全文の分析、特許マップ、競合・技術動向の把握を通じ、戦略仮説やアイデアの検討を支援すると説明していた。分析結果を発明・戦略へ戻す考え方も、前年に確認できる。[24]

企業側の公開講演資料

富士通・和泉恭子氏の資料は、生成 AI の対象業務に、発明発掘、明細書作成、中間応答、IP ランドスケープなどを明記している。ツールの利用に加え、人材育成・知識共有も扱っている。[25]

ダイキン工業・齋藤匡史氏の資料は、人が高度な知財業務へ移るために AI を使う方針と、調査・分析・要約・タグ付与への活用を提示している。一部ページは「当日掲載」とされており、公開版から具体的成果を読み取る際には、その範囲に留意する必要がある。[26]

これらを踏まえると、2025 年を単純に検索・要約中心の段階と位置づけることは適切ではない。前年の時点で、発明・戦略支援と組織的な利用がすでに議論されていた。

コンファレンスと特別フォーラムの比較

コンファレンス・特別フォーラムでも議論の焦点が具体化している。表 4 は公開されたテーマと要旨の比較である。個々の登壇者の発言や当日の質疑を再現するものではない。[27][28]

表 4 フォーラムのテーマの比較

比較対象	2025 年	2026 年と読み取れる変化
日本ライセンス協会のフォーラム	企業における生成 AI 活用を取り上げ、事業・知財活動の事例や課題を議論。	P0-2 でポートフォリオ構築、ライセンス交渉、事業戦略への利用を明示。NEC、キヤノン、ユキグニファクトリー、萬秀憲氏らを登壇者として掲載。活用事例の共有に加え、戦略業務の組替えを前面に提示。
AI と知財制度と人材を扱うフォーラム	知的創造活動の変化、制度、必要な人材を議論。	P0-4 で、AI による生産性向上で生じた余力を経営貢献や次世代人材育成へ振り向ける議論を設定。効率化後の資源配分と部門価値を具体的な課題として提示。

両年の変化に関する考察

以下は、前掲の展示説明・発表要旨・公開講演資料を踏まえた分析である。展示内容の変化と、実際の特許網の強さの変化は区別して論じる。

特許網を構成する候補の生成が具体化した

AI Samurai の前年の IdeaBox は、散在するアイデアを整理し、発明として具体化する支援であった。今年の発明ホコタテは、基本特許を起点として役割の異なる周辺案を出すことを明示している。検討単位が、個々の発明から複数の発明の関係へ広がったと評価できる。[17][3]

今後の評価点は、案の数に加え、基本特許との補完関係、案同士の重複、競合の代替設計への対応である。生成速度の向上だけでは、この部分の有効性は判断できない。

発明の拡張と出願の重点化を接続する必要がある

発明ホコタテや発明発掘ツールは、検討可能な選択肢を増やす。一方、NGB、AIBS、レクシスネクシス、パソナの提案は、事業・競争環境に照らして選択肢を評価し、重要領域を絞る方向にある。[3][6][8][11][9]

特許網構築では、この両方を接続する必要がある。候補生成が容易になるほど、どれを出願し、どれを保留し、どれを維持しないかという選別が、費用と権利群の質を左右すると考えられる。

特許情報と社内の技術や事業情報の接続が具体化した

Amplified の API・MCP、HackCamp の GraphRAG、NTT データの対話型発明発掘は、公開特許だけでなく、組織内の知識・判断・課題との接続を重視している。HackCamp は、社内文書を構造化し、技術・知財と経営を結び付ける展示を説明している。[10][29][12]

特許網は、自社の将来製品、開発計画、代替技術、収益構造と対応して初めて設計できる。AI モデルの性能に加え、自社の事業・技術情報をどれだけ適切に入力・更新できるかが重要になる。この方向性も前年から存在したが、今年は接続方式や業務手順がより明確になっている。

既存特許の活用から追加出願へ戻る工程が具体化した

HackCamp は 2025 年にも特許群から事業テーマを導いていた。2026 年の説明では、技術・機能の構造化、複数特許を横断する用途探索、用途仮説から研究開発・出願への展開が明示されている。[5][7]

これは、保有特許の用途探索を新たな特許網の補強へつなぐ考え方である。実務上は、見つかった用途について、既存権利で保護できる部分と、追加の技術開発・出願が必要な部分を切り分ける工程が重要になる。

人の判断と責任と組織運営まで役割を具体化している

aiip とスズエの連携モデルは、AI の出力を弁理士が精査して権利化につなぐ役割分担を示している。パソナの展示は、分析だけでなく、クレーム設計、方針策定、人材・組織支援まで含む。[13][9]

人と AI の協働自体は 2025 年にも重視されていた。2026 年は、誰が出力を検証し、誰が出願判断を行い、どう継続運用するかという実務設計として示す傾向が読み取れる。[25][26]

成果の評価と今後の検証

公開資料から確認できた進歩は、周辺特許案の生成、発明拡張、ポートフォリオ分析、データ接続、専門家との連携の具体化である。他方、展示された機能の説明から、登録後の権利範囲や競合の回避可能性を含めて、前年より強い特許網が構築できたと直ちに結論づけることはできない。

表 5 特許網構築への効果を評価する観点

評価したい成果	確認が必要な内容
権利群の補完性	生成案が重複せず、基本・改良・用途・実装を補完しているか。
競合の回避への対応	想定する代替構成・設計変更をどこまで保護対象にできるか。
権利化後の有効性	生成案から実際にどのような権利範囲を取得できたか。
事業との適合	将来製品・重要市場・収益源と権利群が対応しているか。
費用対効果	調査・確認・出願・維持の総費用に対して、どの程度保護が改善したか。

2026 年は開催終了直後であり、本比較の 2026 年側の根拠は告知・要旨を中心とする。2025 年の開催報告や公開講演資料と、実装成果を同条件で比較するには、評価対象と資料の時点をそろえる必要がある。

今年の重要な進展は、周辺発明の生成、補強領域の選定、事業情報との接続、権利化の実行を組み合わせる材料がそろってきたことである。今後の有効性の検証では、同じ事業・基本特許・予算条件で、人だけで設計した場合と AI を使った場合を比較し、権利群の補完性と競合の回避余地がどう変わるかを見ることが、判断に役立つと考えられる。

参考文献

本文および表中の番号は、以下の参考文献に対応する。ウェブ資料の参照日はすべて 2026 年 9 月 21 日。公式ポータルの出展情報は出展者による説明であり、性能の第三者検証結果を意味しない。

[1] 知財・情報フェア&コンファレンス事務局. 「第 35 回 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 開催概要」. 2026 年大会公式サイト. 会期 2026 年 9 月 16~18 日. 参照日: 2026 年 9 月 21 日。

<https://pifc.jp/2026/>

[2] 知財・情報フェア&コンファレンス事務局. 「2025 知財・情報フェア&コンファレンス 開催概要」. 2025 年大会公式サイト. 会期 2025 年 9 月 10~12 日. 参照日: 2026 年 9 月 21 日。

<https://pifc.jp/2025/>

[3] 株式会社 AI Samurai. 「2026 知財・情報フェア&コンファレンスに出展します! 知財 AI エージェント「MCP サーバー」および AI Samurai ONE の新機能を紹介!」. 2026 年 9 月 9 日. PR TIMES 掲載の同社プレスリリース. 参照日: 2026 年 9 月 21 日。

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000306.000021559.html>

[4] 知財・情報フェア&コンファレンス事務局. 「出展者プレゼンテーション 知財・情報フェア&コンファレンス 2025」. 公式発表要旨・タイムテーブル、全 3 ページ。主な参照枠 P9、P15、P19、P25、P44、P76。参照日: 2026 年 9 月 21 日。

https://pifc.jp/2025/wp-content/uploads/2025/08/pifc2025presen_v5.pdf

[5] 株式会社 HackCamp. 「【第 34 回 知財・情報フェア展示会レポート】知財部門の役割に大きな変化! 守りの知財部から攻めの知財部へ」. 2025 年 10 月 15 日。出展・講演の開催報告。参照日: 2026 年 9 月 21 日。

<https://hackcamp.jp/learning/article/ivan-pifc2025-report/>

[6] 知財・情報フェア&コンファレンス事務局. 「2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者プレゼンテーション一覧」. 公式ポータル。各講演の番号・日時・登壇者・要旨。主な参照枠 P2-03、P3-09、P3-01、P2-08、P4-09、P6-16、P4-10。参照日: 2026 年 9 月 21 日。

<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/seminars?cat=exhibitor-presentation>

[7] 株式会社 HackCamp. 「【セミナー情報】「2026 知財・情報フェア&コンファレンス」出展者プレゼンテーションに登壇決定」. 2026 年 9 月 7 日。9 月 16 日・17 日の講演告知と要旨。参照日: 2026 年 9 月 21 日。

<https://hackcamp.jp/news/expo-20260902/>

[8] 株式会社アビリティ・インタービジネス・ソリューションズ. 「2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者情報」. 公式ポータル。知財戦略ラボラトリーとの共同出展、ビジネスランドスケープによる初期診断レポート等。参照日: 2026 年 9 月 21 日。

<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/ex-sbgn4pnn>

[9] 株式会社パソナナレッジパートナー／株式会社電通総研／弁理士法人鷲田国際特許事務所。「2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者情報」．公式ポータル。知財戦略支援サービスの説明。参照日：2026 年 9 月 21 日。

<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/ex-youq4ndp>

[10] 株式会社 amplified ai／ルーチェアイピー合同会社。「2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者情報」．公式ポータル。特許データベース、API・MCP 接続、知識共有、ポートフォリオ管理等。参照日：2026 年 9 月 21 日。

<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/amplified-ai>

[11] レクシスネクシス・ジャパン株式会社。「2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者情報」．公式ポータル。PatentSight+、Protégé、AI 特許分類等。参照日：2026 年 9 月 21 日。

<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/ex-2jqm0bhi>

[12] 株式会社 NTT データ。「2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者情報」．公式ポータル。対話型発明発掘・発明提案書作成、10 月以降の先行提供予定サービス等。参照日：2026 年 9 月 21 日。

<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/ntt>

[13] aiip 株式会社／弁理士法人スズエ国際特許事務所。「2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者情報」．公式ポータル。マインドマップによる発明発掘と権利化実務の連携モデル等。参照日：2026 年 9 月 21 日。

<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/ex-qdqk2bve>

[14] アイビーリサーチ株式会社。「2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者情報」．公式ポータル。特許専用ローカル LLM AIPs 等。参照日：2026 年 9 月 21 日。

<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/ex-2awuasg5>

[15] 知財・情報フェア&コンファレンス事務局。「2026 知財・情報フェア&コンファレンス 製品一覧」．公式ポータル。Patentfield、Patlytics 等の製品・機能説明。参照日：2026 年 9 月 21 日。

<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/products>

[16] 株式会社 Genzo AI。「Genzo AI 公式サイト」．サービス説明。発明提案、明細書作成、中間対応、先行文献調査、侵害予防調査等。参照日：2026 年 9 月 21 日。

<https://www.genzo-ai.co.jp/>

[17] 株式会社 AI Samurai。「(株)AI Samurai は、トヨタテクニカルディベロップメント(株)とコラボし「知財×AI」の最前線を発信—2025 知財・情報フェア&コンファレンスに共同出展いたします!」．2025 年 8 月 29 日。新機能と出展者・ブース内講演の告知。参照日：2026 年 9 月 21 日。

<https://aisamurai.co.jp/2025/08/29/株 ai-samurai は、トヨタテクニカルディベロップメント/>

[18] トヨタテクニカルディベロップメント株式会社。「2025 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細」．小間番号 W4-120。swimy、AI 活用による戦略的外国出願等。参照日：2026 年 9 月 21 日。

https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=71

[19] Axelidea 株式会社。「2025 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細」．小間番号 W4-79。AXELIDEA Patent、Patent Flow、Patent Spark。参照日：2026 年 9 月 21 日。

https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=13

[20] AI データ株式会社。「2025 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細」．小間番号 W4-96。プライベート AI 特許 MyTokkyo.Ai。参照日：2026 年 9 月 21 日。

https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=31

[21] Patsnap 合同会社。「2025 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細」．小間番号 W3-47。Eureka、Analytics 等。参照日：2026 年 9 月 21 日。

https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=86

[22] 株式会社 NTT データ. 「2025 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細」. 小間番号 W4-85。知財特化型 AI・AI エージェントを用いたプラットフォーム等。参照日：2026 年 9 月 21 日。

https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=34

[23] 株式会社アビリティ・インタービジネス・ソリューションズ. 「2025 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細」. 小間番号 W3-26。「IP×経営」コンサルサービス等。参照日：2026 年 9 月 21 日。

https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=18

[24] 株式会社エムニ. 「2025 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細」. 小間番号 W3-64。AI 特許ロケットによる特許全文分析と戦略支援。参照日：2026 年 9 月 21 日。

https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=334

[25] 和泉恭子／富士通株式会社. 「AI 時代の知財制度構築を考える ～知的創造活動の変化と知財権、必要な人材とは～」. 2025 年 9 月 11 日。公開講演資料、全 7 ページ。参照箇所 6 ページ。参照日：2026 年 9 月 21 日。

https://pifc.jp/2025/wp-content/uploads/2025/09/pifc2025f3_003.pdf

[26] 齋藤匡史／ダイキン工業株式会社. 「ダイキン工業の AI を活用した知的財産活動」. 2025 年 9 月 11 日。公開講演資料、全 7 ページ。参照箇所 5～6 ページ。参照日：2026 年 9 月 21 日。

https://pifc.jp/2025/wp-content/uploads/2025/09/pifc2025f3_002.pdf

[27] 知財・情報フェア&コンファレンス事務局. 「2025 知財・情報フェア&コンファレンス 来場のご案内」. 特別講演・フォーラムのプログラム。主な参照枠 P2、P4。参照日：2026 年 9 月 21 日。

<https://pifc.jp/2025/visit/>

[28] 知財・情報フェア&コンファレンス事務局. 「2026 知財・情報フェア&コンファレンス コンファレンス&特別講演・フォーラム一覧」. 公式ポータル。主な参照枠 P0-2、P0-4。参照日：2026 年 9 月 21 日。

<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/seminars?cat=conference-forum>

[29] 株式会社 HackCamp. 「2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者情報」. 公式ポータル。共創ナビ ivan、GraphRAG、伴走支援等。参照日：2026 年 9 月 21 日。

<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/hackcamp>